

学校教育目標	夢と志をもち、よりよく生きようとする「板城っ子」の育成	経営理念	○ミッション: 確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的・協働的に学ぶ児童の育成 ○ビジョン: 「学んでよかった」「楽しかった」と信頼され期待される学校づくり ・児童が学びたい学校 ・教職員が誇りとやりがいをもてる学校 ・保護者や地域が通わせたい学校
--------	-----------------------------	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
確かな学力	1	自ら学ぶ態度の育成と学力の向上	研究主題に基づく授業研究(表現力の向上) 基礎基本の定着・向上	○主体的にかかわりあって学ぶ学習活動の実践 ○表現力を育成する学習活動の実践研究 ・単元テストの思考、判断、表現項目の正答率70%以上の児童の割合【80%以上】 ・全国学力学習状況調査、NRT学力検査【全国平均以上】	80%	80%	単元テスト 86.5%	単元テスト 89.5%	111.8%	4	・単元テストの正答率70%以上の児童は、国語94.7%、算数84.3%であった。前期と比較すると、国語は0.6%、算数は5.4%向上した。特に低学年の伸びが大きかった。主体的に表現する児童の育成をめざして、特に国語科、算数科及び特別支援教育の授業研究にチームで取り組み、児童が自分の思いや考えを進んで表出するための手立てを意図的に仕組むことで、学びを深めることにつながったと考えられる。 ・今後も継続的に、学習状況を把握して定着を図る時間を確保したり、児童が主体的に学びに向かう指導の改善に努めたりする必要がある。	A	・学力向上につながっている。 ・個に応じた指導ができています。 ・教室が落ち着いて授業が進んでいる。板書が良い。 ・粘り強く指導を続けてほしい。	・児童の実態に合わせて手立てや表現方法を検討し、個別指導を継続しながら、表現力を高めていく。
							○ICTの効果的な活用の推進	・情報活用に関する児童アンケートの肯定的評価【80%以上】	80%					
豊かな心	2	社会生活を円滑に進められる資質や能力の向上	自己指導能力の育成向上 自己肯定感の向上	○自分や友達の良さに気づき、自己肯定感を味わう活動の推進 ・児童アンケート「自分の良さが認められていた」と感じている児童の割合【80%以上】	80%	80%	85.2%	86.4%	108%	3	・児童会活動、行事後の手紙交換、なかよし班掃除での振り返り、「ナイスな板城っ子」など、日々の活動を通して「互いの良いところを伝え合う」ことが、児童の自己肯定感の向上につながったと考えられる。 ・一方で、自己肯定感の高さを表現することが課題である。来年度は教職員の意識を統一し、日々の活動での返事や号令を徹底させ、あいさつなどの表現につなげていく。	A	・自己肯定感を高める活動を続けてほしい。 ・教師以外の人との出会いを多くすることがヒントとなる。	・自己肯定感を高める活動を継続するとともに、表現力豊かな児童の育成にも力を入れていく。
							○学級の支持的風土を醸成し、学校満足度を向上させる活動の推進	・hyper-QUIにおける学級生活満足度の全校児童の割合【80%以上】	80%					
健やかな体	3	健やかな心身の育成	体力・運動能力の向上 健康的な生活習慣の形成	○体を動かす場と機会の確保(外遊びの日常化、体育朝会や体育学習の充実) ・新体力テスト「長座体前屈」の記録が伸びた児童の割合【75%以上】	75%	75%	84%	70.4%	93.8%	3	・高学年は76.9%と達成率が高くなっている(中学年は72.8%)。 ・低学年は60.2%と目標を達成できなかったが、もともと体が柔らかいということもある。 ・楽しんで柔軟運動が継続できるように、外部から講師を招く取組をした。 ・柔軟体操を継続して行うことを全体に周知していく必要がある。さらに柔軟性のある、怪我をしにくい体づくりを目指していきたい。	B	・低学年の達成率向上に努めてほしい。 ・柔軟性は重要なので、さらに工夫がほしい。柔軟性の評価項目も追加してほしい。 ・体力向上に関しては、学校だけでなく家庭との連携が必要。	・今年度の取組を継続し、児童の体力向上を目指していく。
							○生活習慣の改善とメディアとの適切なかわり方に関する指導の充実	・「板城元気っ子デー」の全ての項目で8ポイント以上達成した児童の割合【90%以上】	90%					
信頼される学校	4	保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	家庭・地域との信頼関係の構築 「働き方改革(業務改善)」の推進	○学校運営協議会との協働による地域の教育力の活用と地域への貢献 ・地域と連携した教育活動【各学年1回以上】 ○学校情報の積極的発信(GRM・HPの効果的な活用) ・保護者アンケート「学校は教育活動の様子をわかりやすく伝えている」における肯定的評価【90%以上】 ○業務改善の推進による子供と向き合う時間の確保(日課表の見直し、教職員の協働体制の確立)と時間外在校時間等勤務の削減(年間行事の見直し等)	90%	90%	100.0%	100.0%	108.8%	3	・地域と連携した教育活動は各学年とも計画し、実施することができた。各学年の実態に合わせて、地域の方との交流も増え、地域への愛着につながることができた。 ・後期もHP・メールを活用し、学校日記・学校だより・学年だより・お知らせ文等を配信・配布することができた。保護者アンケートで高評価をいただいたので継続していく。	A	・学校からの情報発信は素晴らしい。 ・地域からの情報提供の機会があれば良いと思う。 ・評価は4でいいのではないかな。	・情報発信を継続し、地域とのつながりを大事にしていく。 ・学校運営協議会委員と教職員の意見交流を計画する。
							66.7%	81.2%						
							95.8%	100.0%						

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

4...目標を上回って達成
2...目標をやや下回って達成

3...目標どおり達成
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)

A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない(N...判定できない)